

管崎ハサキ かしるより當所の中間をたゞら渴とて、東へ遠き干渴也。在所は北南へ遠し、八幡宮たち  
給ふ。社壇西向也。神社の部にくはしく有之、こゝに立るしの松とて有。神前より未申に井垣あり。  
戒定惠カザヂエ の管埋られし所と云々、依之管崎と云り、松原北南一り、下は白砂也。無雙の松原也。博多ち  
かし、北は海也。此所を唐泊袖カラドマツ の港と云といへり、拾遺神樂のうたに重之。

いく代にか語つたへんはこ崎の松のちとせの一ならねば

生松原イチノマツラ 西南東陸、北は海なり、里有、博多より西也、中間一里なり、新古今別のうた、枇杷皇太后宮、  
涼しさは生の松原まさるともそふる扇の風なわすれそ

産の社ウニノサ 博多より東也、神社の部有之。

三笠山 森有之、應神生湯を此山にて召れしより、竈間山とも云也。

あやしくも我ぬれ衣をきつる哉三笠の山を人にかられて

西都カサ 宰府也 木丸殿 朝倉山 思川 染川 三笠の森

寶満山麓也、天神の聖廟社壇南向也、府中の西のはし也、かるかやの關など、云も此所也。

蘆城山ブロキヤマ 三笠山より東也、あしき山より府中へ三り也、右之外舊記にとめし名所多有之とい  
へども、あまねく人の立らざる分除之。

〔筑紫道記〕明れば廿九日○(文明十一年九月)生の松原へと皆同行さそひて立出侍るに、大なる川を打渡り、  
みれば右に一村の林有、則聖廟の御社なり、○中やがてかの松原に至る、大き一丈ばかりにて、皆  
浦風にかじけたるも哀れなり、引入て社有、○略 中御神のいきよとてさし給ひけん松は早う朽て、  
その根を人守りにかけしなどかたるも、昔こひしきもよほしなり、社壇の右の方に、大き成松の  
しかもすがた常ならず神さびたる有、是は末遠くいきの松ともいふべかりけるとみるに、我齡  
の程たのむかげなきも心細くて、又はかなしことを。